

宮城県石巻市で送迎ボランティアを続ける

ひろこ さん
むらしま 村島

東日本大震災の被災地・宮城県石巻市で、通院する高齢者や障害者を対象とした送迎を担うNPO法人「移動支援レラ」の代表を務める。「被災地は超高齢化する日本の未来を先取りしている。移動支援は不可欠な支援」と強く感じている。

札幌市出身で大震災発生当時は、千葉県内にある研究農場の牛の飼育スタッフ。「体力に自信がある」と石巻市にボランティアに駆けつけた。大型特殊車両免許を持ちフォークリフトも運転できるため、復旧工事などで役に立つと思うっていた。

そこで任されたのは、被災者

を送迎する移動支援ボランティア。未経験の仕事に最初は戸惑った。しかし、高齢者や透析患者らの通院を支えることは、命を守ることに直結していた。多くのボランティアが短期で帰る中、業務を引き継ぐ仕事を任せられ、当初2週間だった滞在予定は現在まで大幅に延びている。

代表に就任したのは2012年8月。「石巻の人が望ましい」と断っていたが、生活再建途上にある地元スタッフの依頼もあり引き受けた。週6日の活動に加え、休日も資料作成に追われる。石巻市で移動支援を最初に始めた札幌市のNPO法人ホップ障害者地域生活支援センターの竹田保代表理事(54)は「責任感が強い。彼女のおかげでレラが続いている」と話す。

「被災地では復興に格差が出ていて、生活の見通しが立たない人もいる。北海道からもまだまだ支援をお願いしたい」と訴えている。39歳。(安本浩之)